

中西 香爾 博士の業績の概要

名古屋大学で故・平田義正先生に薫陶を受け、東京教育大学（1958-62、現筑波大学）、東北大学（1963-68）、コロンビア大学（1969-）にて天然有機化合物の構造決定に関する研究を展開。現在の研究の潮流である学際領域へ積極的に進出。物理現象を積極的に導入し、多くの天然有機化合物の構造決定を行う。また、天然有機化合物の生物活性解明研究も展開するなど、そのユニークな研究手法は現代のケミカルバイオロジー研究の先駆けとなった。このように、中西博士は新たな研究分野を生み出すだけでなく、装置、測定法の開発にも多大な貢献を残した。今後も、広い分野の研究者、産業界への波及効果が期待されている。

【業績】

- 200を超える天然有機化合物の構造決定および機能解析に優れた成果を残し、天然物化学に多大な貢献
- 時空間を制御した天然物の単離・構造および機能解析—チュニクローム B-1 の構造解明
- 物理学と化学および生物学と化学の学際領域の開拓

【天然物化学の社会への波及効果】

中西博士は、「単離」「構造決定」に物理学の手法を積極的に応用するなど、その時代の常識を超える方法論を駆使し、当時の分析技術では不可能と言われた天然有機化合物の構造、機能解析を成し遂げた。これらの方法論、分析技術は、その後の天然物化学の主流となり、多くの研究者、産業界に多大な影響を及ぼした。